

## 令和5年度 校内研究のまとめ

今年度の研究主題

### 知識の定着を目指した授業改善

### ～先行学習を通して～

#### 研究主題の変遷

令和3年度「読むことで考えを形成する児童の育成」教科 国語

令和4年度「記号（文・図・式など）を正しく読み取り、考えたことを書ける児童の育成～先行学習を通して～」  
教科を問わない

令和5年度「知識の定着を目指した授業改善～先行学習を通して～」教科を問わない

#### 学校として取り組んできたこと

- ・視写
- ・共書き
- ・ボールペンの使用
- ・視写用ノートの使用
- ・予習



#### 各学年の成果と課題

##### 【児童の基礎学力の向上について】

##### 成果

###### ◇1年生

- ・予習内容を先に伝え書かせることで、児童が学習内容を知ることができていた。
- ・難しい問題に挑戦する子が増えた。

###### ◇2年生

- ・予習を行ったことで見通しをもって課題に取り組める児童が増えた。
- ・視写ノートの活用により筆記速度が上がった。
- ・課題に取り組み、自分で考える時間が確保できるようになった。

###### ◇3年生

- ・共書きに意識して取り組んだため、ノートの速度が上がった。よって、授業についてこられる児童が多くなったため、学力が上がったように感じる。何をもって学力が難しいが。

###### ◇4年生

- ・テスト結果からは特に成果は感じられなかった。
- ・予習内容を先に伝えるやり方は児童にとって分かりやすく、楽しいと実感する児童が多かった。
- ・理解度評定は、児童自身が「わかった」を実感できる方法としてとても効果的だった。

###### ◇5年生

- ・継続して取り組んできたことにより、書く速度や活動への慣れなどにつながった。
- ・2学期から重点的に取り組んでいたが、1学期よりも平均点が上昇した。
- ・予習内容と理解度確認を適切に結び付けていくことで、本時にどのレベルまで到達しなければいけないかが明確になり、児童が集中して活動に取り組んでいた。

###### ◇6年生

- ・教科書に出てくる用語は理解できるようになってきた。
- ・児童に予習することが定着してきた。
- ・自分の学力に関心をもつ児童が増えた。
- ・書くことへの抵抗が減った。

##### 課題

###### ◇1年生

- ・1時間の授業での理解度は問題ないが、知識の定着に課題がある。
- ・考え方についての書き方を提示しないと、自ら書くことは難しい。

###### ◇2年生

- ・知識の定着が難しかった。
- ・自分の意見をまとめて発表しようとする児童もいるが、苦手意識をもつ児童もいた。

- ◇ 3年生
  - ・知識は定着したように感じるが、思考力・応用力は伸びてこなかった。
- ◇ 4年生
  - ・1時間の授業での理解度は問題ないが、知識の定着に課題がある。
  - ・基礎的な知識を応用して問題を解くことが難しい。
- ◇ 5年生
  - ・単語レベルでの理解にとどまってしまった。予習内容を補説する際に、文脈上での言葉の意味まで説明することで、単語レベルでの理解を脱却できるのではないかと感じている。
- ◇ 6年生
  - ・既習学習の内容を思い出すことができなかつたり、時間がかかつたりする。
  - ・低学年や中学年までの学習が定着していない。積み重ねがない。

### 【指導者の授業力の向上について】

#### 成果

- ◇ 1年生
  - ・授業の型を同じにすることで、見通しをもった授業を行うことができた。
  - ・共書きを行うことで、学級全体で字を早く書けるようになった。聞く力がついてきた。
  - ・共書きをすることで、言葉として捉えながら書くことができるようになってきている。
  - ・机間指導の重要性を教えていただいた。
  - ・児童の実態に適した共書きを行うことの重要性を教えていただいた。
- ◇ 2年生
  - ・教材の分析や、児童の実態把握について学年で話し合う機会が増えた。
  - ・補足などに必要な知識を得るため、教材研究の仕方や、教師の立ち位置、発言回数など細かい指導技術を意識して取り組むことができた。
- ◇ 3年生
  - ・先行学習という型を学ぶことができた点。
- ◇ 4年生
  - ・算数に関しては、授業の型があることで児童が流れをつかみやすく、見通しをもった授業を作ることができた。
  - ・予習内容について理解している部分とそうでない部分に線を引かせる方法は、児童がどれだけ理解しているかを見取ることができ、効果的であった。
  - ・チャレンジ問題の取り組み方（一人で考える、友達と考える、先生に聞く）や、共書きすることでの聴写力など児童の学習力を向上させるスキルを学び、実践することができた。
- ◇ 5年生
  - ・予習内容を中心に授業を組み立てることで、授業の流れが分かりやすくなり、授業のねらいを明確にすることができたように思う。
  - ・補説を考えることを通して、教材理解や語彙理解が深まった。
  - ・理解度確認を通して、児童がどのくらい分かっているかを把握することができ、次時の学習に生かすことができた。
- ◇ 6年生
  - ・先行学習という学習法があることが分かった。
  - ・教科書を徹底活用することができるようになった。
  - ・本時における指導内容（教えるべきこと）を整理しやすかった。本時をタイムマネジメントしやすい。

#### 課題

- ◇ 1年生
  - ・活用課題を作成することが難しかった。
- ◇ 2年生
  - ・活用課題の作成に難しさを感じた。
  - ・指導に適した教科、単元の選定に難しさを感じた。
- ◇ 3年生
  - ・先行学習を最後まで理解できず、指導力が向上しなかった。



#### ◇4年生

- ・理解度評定の活用方法が効果的ではなかった。理解度評定は児童自身が理解度を実感するものだけでなく、「わからない」に手を挙げた児童を重点的に机間指導できるためのものでもあると教えていただいた。

#### ◇5年生

- ・補説が単語レベルになってしまった。今後は、文章全体を捉えた上で補説をしていけるようにしたい。
- ・授業全体を通して、教科書を用いなかったこと。→子どもたちは気になったら教科書をみることもあるはず。教科書を徹底的に活用するのであれば、教科書は常に開かせておく。

#### ◇6年生

- ・活用課題を設定することが難しかった。
- ・日常的に先行学習を行う学級とそうでない学級とで差があった。
- ・指導事項の精選が難しかった。捨てる勇気も必要。
- ・教科の特性によって先行学習を行いつらいものもある。国語は難しい。

### 【今後の研究に必要だと思われること】

- ・学習した内容をどのように定着させていくか。
- ・児童の語彙をどのように増やしていくか。
- ・教員の声を取り入れること。（どんな研究をしたいのか、なぜ研究するのか）
- ・児童の実態を捉えて、研究の課題を見つけること。
- ・一つ一つゆっくり進めること。研究テーマは何なのか、なぜそうなったのか、研究仮説は、目指す児童像は、など教員一人一人の意見を聞きながら、ゆっくり進めるべきだったと思う。
- ・どう知識を定着させていくか。
- ・児童の読解力の向上について。
- ・学力観や指導観を共有し、教員間での目線を揃えていくこと。
- ・教科横断的に、また、系統性をおさえつつ、既習学習の内容を学習の展開内に盛り込んでいくこと。

### 研究推進委員による成果と課題

#### 視点1【研究テーマについて】

##### 成果

##### 児童の実態について

- ・共書きをすることで書く速さが速くなった。聞く力が伸びた。ノートを書くのが速くなった。書く準備が早くなった。
- ・学習内容をスムーズに理解できるようになった。
- ・自主学習でも予習という勉強方法の一つを習得できた。
- ・指導者が教科書の内容を網羅して授業展開を考えることができる。
- ・視写が好きになり集中して取り組んでいた。

##### 課題

- ・思考力をねらうことが難しい。活用課題までいけない。
- ・視写するだけになり、言葉の定着が難しい。
- ・知識の定着を図ることが難しい。→既習学習を意図して行う。
- ・書くことができるようになったけど、書いた内容を理解しているのかが曖昧。
- ・先行学習の型を理解しきれていない、実行できていない。教員間でも差がある。

#### 視点2【研究推進委員会の運営について】

##### 成果

- ・(ICT タブレット) ジャムボードを使うことで話し合いをスムーズに行うことができた。
- ・板書計画について、作る側は負担がなくてよい。

##### 課題

- ・話し合いのグループを毎回同じにせず、変えることで様々な意見を聞くことができたのではないか。
- ・板書計画は見る側として流れが把握できなかった。
- ・指導案はあると良い。(必要なものは精査する)
- ・教員間での話し合い時間は最低20分取る。